

会員と千葉県連盟をつなぐ

# ちばニュース

2018年 7月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2018年 7月1日発行 通巻303号

事故が多発している

まずは、重大事故を防ごう

## 7月号目次

・ 目 次	2
・ 県連6月理事会報告	3
・ 初級登山者講習会報告	5
・ クライミング体験記	6
・ 国際山岳看護師紹介	9
・ 県連海外委員会たより	11
・ 全登研集会案内	12
・ リニア新幹線 署名	15
・ 福島の子供たちと夏休み	17
・ 県連たより	19
・ 7月・8月予定表	20

### 表 紙 説 明

6月16日(土)17日(日)山梨県勝沼で、関東ブロック役員交流会が山梨県連の当番で実施された。千葉県連からの参加者は1名なので、車よりJR利用が安価なので一人旅を楽しんだ。駅名は「勝沼ぶどうの郷」ホームに降りると目の前にぶどう棚が広がる。甲府盆地を見下ろす傾斜地のぶどう畑に囲まれた景勝地にある「大善寺」の民宿が会場である。

寺の縁起によると、「僧行基」が夢で薬師如来のお告げあり、この地に法薬のぶどう薬園を作ったのが「甲州ぶどう」となったとの事だ。

葡萄酒は薬の響きだが、私にはワインはノンベアの響きである。

前置きが長くなったが、朝食前に大善寺の境内を散策した時に咲いていた「あじさい」がとてもきれいだった。

甲府盆地の向こうには、富士山・南アルプスが霞んで見えた。

——編集者——

## 千葉県連6月理事会報告

- I. 日 時 2018年6月21日(木) 19:00～
- II. 場 所 船橋市西部公民館 第4集会室
- III. 出席会
- ・君津ケルン山の会 ・ふわくハイキングサークル ・ちば山の会
  - ・茂原道標山の会 ・千葉こまくさハイキングクラブ ・東葛山の会
  - ・松戸山の会 ・かがりび山の会 ・岳人あびこ ・市川山の会
  - ・松戸山翠会 ・山の会「岳樺クラブ」
  - ・顧問 ・会長 ・副理事長 ・自然保護委員長 ・教遭委員長
  - ・会計 ・ふれあいハイク実行委員長

### IV. 議 題

#### 1. 専門委員会報告

##### (1) 教育遭難対策委員会

- ・事故一報 奥多摩沢登滑落事故報告  
沢登での事故が多い 沢シーズンであり要注意
- ・初級登山者講習実施報告 参加会：9会 参加者数：31人

##### (2) ハイキング委員会

- ・次年度ロングハイク 2019年1月26日(土) 27日(日)  
七里川温泉泊 清澄寺～東大演習林～坂本

##### (3) 自然保護委員会

- ・クリーンハイク報告 6月2日(土) 金山ダム周辺  
参加者 28名 回収ゴミ127kg
- ・鴨川メガソーラー建設中止を求める会代表の今西氏より 計画と自然破壊の深刻さについて講話を受け、建設現場を見学した。
- ・リニア反対の集会・7月7日(土) 8日(日) 南アルプス樫島ダム集合

#### 2. 機関誌(ちばニュース)発行について

- (1) ちばニュースに期待する事や発行体制について、今までの理事会で出た意見・提案をまとめると以下のようなになる、

##### 【記載してほしい記事】

- ・初級登山者向け技術講習
- ・加盟会の情報を掲載する。  
会の山行記録を分担し持ち回りで掲載する。  
各会の山行計画や交流山行に関連して、各会の会報掲載記事を掲載する。
- ・全国連盟情報(行事会議参加者の報告文)
- ・日本登山界の情報
- ・植物(樹木、草花、植生)関連記事
- ・リレーエッセイは続けてほしい
- ・時機を失さないリアルタイムの情報

##### 【発行方法、その他】

- ・隔月発行でもよいのでは

- ・クラウドの利用
- ・発行事務局を作るとしたら、その役割は「提供された原稿を束ねる業務だけ」と割り切る
- (2) 今回、各会から出された意見、
  - ・登山用具の紹介
  - ・世の中の情報（例えば雲南懇話会）
- (3) 今後の進め方について
 

各会の会報・機関紙担当者の意見交換、交流を実施しその結果を踏まえ9月理事会に発行体制を含めた提案を行う

  - ・意見交換会 8月30日（木）18：00 県連事務所

### 3、交流山行について

- (1) 今までの理事会で交流山行の目的、イメージはほぼ固まりつつある。
- 【目的】千葉県連会員ならだれでも参加できる山行を計画し、そこに参加して交流し会員相互の親睦を図る。
- 【山行のイメージ】
- 各会で実施している山行（会主催山行、個人山行を問わず）で、他の会員も参加できる山行を選んでちばニュースで広報し参加者を募集する。

#### 【.交流山行について、理事会で出た意見・提案】

- ・交流山行は意義のあることだと思う
  - ・自分の会では実現できないような（山菜山行、岩魚山行など）ユニークな山行を期待する
  - ・主催会となり自会の山行計画を公開し、県連全体に公募して取りまとめる事には余裕がないと言う会が多い。
  - ・主催会に負担を掛けない実施方法が必要。
  - ・「岳樺クラブ」から「フリークライミング初心者対象室内壁講習会」を検討中との前向きな報告あった。
- (2) 主催会に負担をかけないやり方として君津ケルンとかかりび山の会から以下の提案があり出席各会の賛同を得た。
- ・参加各会は主催会の決めた集合場所（登山口など）に集まる。
  - ・参加会は、独立した計画を作り、行動の責任はそれぞれの会が持つ事とする。
- (3) 今年中に実施すべく次回の理事会までに主催会に手を挙げる会が出る事を期待する。（連絡は、鶴田副理事長まで）

### 4、その他

- ・第17回ふれあいハイクについて、岡田実行委員長（千葉こまくさHC）  
2018年9月30日（日）・三浦半島大楠山（241m）・参加費4,500円  
募集締め切り 9月末日
- ・車イスでの参加者のために、スリング・カラビナ・ロープ等の持参をお願いします。

以上（文責 鶴田）

## 2018 初級登山講習の報告

千葉県連教育遭難対策委員会

6月9日、栃木県の鹿沼・岩山にて初級登山講習を行いました。

参加者は下記9会で計31名の参加があり、3班に分けての講習となりました。班構成は、会の交流を図るため、各会を混合したメンバ構成としました。

今年は教遭委員が講師となって、9時に新鹿沼駅を出発し、街中での地形図とコンパスの使い方講習から始まり、岩場で登下降、7点セットを使用したロープワークの基礎訓練、岩場のトラバース、ツェルト設営、事故時の応急処置など盛りだくさんの内容で16時に解散しました。

ロープを張ってクレムハイストによる岩場を下降する方法、ツェルト設営では、プルーゾックによりツェルトをメインロープに固定する方法、応急処置では、ペットボトルを半円筒にくり抜いて手首を固定する方法など、すぐに活用できる方法を学べたのではないのでしょうか。

\*参加会：千葉こまくさハイキングクラブ、東葛山の会、松戸山の会、山の会「岳樺クラブ」、船橋勤労者山の会、かがりび山の会、君津ケルン山の会、茂原道標山の会、まつど遠足クラブ1年さくら組



## 県連教遭委員のクライミング体験記

かがりび山の会 伊東春正

教遭委員 8 名でクライミング講習を行いましたので報告します。

### 【背景】

県連理事会にて会員の県連離れ対策の一つとして、会員が魅力を感じる新しい企画の立案実行がテーマとなり、施策案として最近若い人に人気があるクライミング講習があげられた。

それを受け、教遭委員会でクライミング講習は可能なのか協議した。

結果、講師への負担が大きい、かつ講師ができる技術者が減少していることにより、講習は難しく、クライミングの取りかかりとなる「経験させる」程度だったら可能であろうとなった。

とはいっても、教遭委員の中にクライミングの未経験者が多く、まずはクライミングとは如何なるものかを知るために、近場で教遭委員だけのクライミング講習会が企画された。

### 【日時・場所】

日時：平成 30 年 5 月 13 日（日）8 時～12 時 30 分（雨の降り出しと満潮が近づいたため早めに切り上げ）

場所：茂原道標山の会の訓練場所である房総・鵜原海岸の鵜原岩峰で行なった。

### 【実施】

茂原道標山の会の山崎さん、ちば山の会の田中さん、山の会「岳樺クラブ」の小林さん、向井さんが講師となり、クライミング初体験の 4 名（訓練生）を指導した。

私は、ヘルメット、7 点セット、ハーネス、確保器（ATC）、クライミング・シューズ（今回新たに購入）を持参して参加した。

まず、講師がリードクライミングにより訓練用のトップロープを、20m の高さに 2 ケ所設置した。

途中で、頭の大きさ程の岩が剥がれ落ちたそうになっていたのには肝を潰した。訓練生は、トップロープを使ってトップロープクライミングを行った。確保は勿論講師である。

最初、岩場を見たとき、これを登るのかと躊躇したが、実際に登り始めるとしっかりと確保してもらっていることの安心感で、恐怖は感じなかった。

初心者の訓練コースであるので、何とか支点までは登れたが、途中、ホールドできる岩がなく、支点を手掛かりにする場合は、直接持たず、カラビナ（ヌンチャクも可）をかけて手がかりにするとの助言を受ける。（墜落時の指切断防止のため）

また、終了点の支点でビレイをとるときは、片手で支点を握ってビレイするため、もう一方の片手だけでビレイのためのロープセットをするよう注意された。降りる場合は、全体重をロープにかけ、足裏を岩場にぴったり着くくらいに倒

れて下降する。(ロープに体を預け、つま先で立たないようにする)

次にビレイの体験をした。

登攀者が下降時のビレイは、登攀者の命を預かっていると思うと気を抜けない。ビレイヤーのビレイはスリングではなく、メインロープを使用すること。登っている人が落ちた場合、ロープの支点で確保していると、ビレイヤーが引きずられることがないようにするためである。(なるほど)

最後に懸垂下降を行った。ロープ回収のため、ロープを2重にして下降する。(今回は行わなかったが、長い距離の下降ではロープ2本を連結して下降する。)

### 【講習内容】

- ハーネス・カラビナ類の取り扱いと身体へセット
- 50mクライミングロープの種類及び使い方とハーネスへ直セット、岩場の心構え
- マルチ方式でのリードとビレイヤーの役割
- トップロープでの登攀とビレイヤーの体験(支点作りは未実施)
- 懸垂下降体験
- ロープの収納

### 【感想】

初めてのクライミング体験で、無我夢中であったが、当初目的のクライミングとは如何なるものなのか、という観点で感じたことを述べる。

当然ではあるが、クライミング中は足が地面についていなので、普通の登山に比べ、常に危険にさらされている。

そのため、よくある登山へ連れて行ってと人に頼る感覚では通用せず、自分を守る技術をしっかりと身につけないといけない。

その上で取り組むのであれば、傍から見るほど危険ではないと思う。

クライミング講習に参加するには、下記前提知識が必要である。

・トップロープ、リード、フェース、スラブ、ガバなどのクライミング用語を理解しておく。

・コールの言葉とそのタイミングを理解しておく。

登攀者(トップ又はリード)とビレイヤー(又はセコンド)は、登攀中の意思疎通のために、ロープダウン、ビレイ解除などの短い言葉(コール)によって合図をやりとりしている。

・当然ながら用具の正しい使い方を理解しておく

クライミング技術習得には、豊富な現場経験が必要であろう。

そのためには、ベテラン指導者との実践の積み重ねが重要で、クライミング講習などのマス教育では身につかないと思う。

教遭としてやるべきは、机上講習でクライミングの基礎技術(前述の前提知識を含む)を教えることがよいのでは思っている。



訓練場所



講師のリードクライミング



訓練生のトップロープクライミング



登攀時のビレイヤーのロープの握り



下降時のビレイヤーのロープの握り

## 県内初の『国際山岳看護師』が誕生！

山の会「岳樺クラブ」所属 小林 美智子

今年6月、千葉県内初、国内4人目の『国際山岳看護師』の認定を受けました。

「山岳看護師」という言葉を聞いたことがない方も多いと思いますが、簡単に言うと病院ではなく山で活動する看護師です。

国際山岳看護師は、国際山岳連盟医療部会(UIAA Med Com)、国際山岳救助協議会(ICAR)、国際登山医学会(ISMM)に認定された国際基準で、日本では日本登山医学会認定委員会が運営しています。



取得しようと思ったきっかけは、岳樺クラブに所属していた国際山岳医の方々に勧められたことでしたが、医学的な知識のみならず、救助技術・山岳登山技術の習熟も求められるため、会で教わった登攀技術が救助技術の習得にも活かされました。



実際の活動内容としては、北アルプスや富士山に開設される山岳診療所活動、甲斐駒ヶ岳七丈小屋を拠点とした山岳医療パトロール、山岳スポーツ大会の救護班、学校遠足登山への帯同、安全登山のための講習会の講師などを行っています。

その経験からか、今では講習会や山岳診療所での人との関わりや、山岳医療パトロールでの登山者との会話などが楽しみとなっています。そして、その関わりの中で自分の活動に対するニーズと責任も実感しています。

先日、2017年に起きた山岳遭難事故が2583件で、死者・行方不明者は354人（遭難者は計3111人）だったことが警察庁から発表されました。



山の中では、医療従事者だけでは人の命は救えません。同じように、山岳救助隊、小屋番さん、ガイドさんだけでも人を救うことは容易ではありません。その場に居合わせた登山者も含めて、山に関わる皆の協力でやっと命は救えると思います。



私は、今まで医療従事者として山の中での応急手当を中心に講習等を行ってきました。

今回の国際山岳看護師の資格取得をきっかけに、山での遭難事故を少しでも減らせるよう、習得した知識・技術を活かして、皆様のより一層の安全登山に貢献していきたいと思っています。

## 海外委員会だより

海外委員会 安彦 秀夫(東葛山の会)

### 1) タイ『チェンダオ山』登頂と世界遺産『アユタヤ』・バンコク市内観光

6月28日(木)時点での参加希望者は、1名増えて『22名(9会)』になりました。参加者(男性11名、女性11名)の内訳は次の通りです。

東葛山の会8名、千葉こまくさハイキングクラブ6名、松戸山の会2名、かがりび山の会1名、松戸遠足クラブ1年さくら組1名、ちば山の会1名山の会らんたん1名、茂原道標山の会1名、ふわくハイキングサークル1名  
現在、旅行会社と現地での具体的な日程や旅行代金等の再確認を進めています。詳細が決まり次第、参加者にはメールにてお知らせします。  
新たに参加希望者がおりましたら、早めにご連絡を頂きたいと思っております。航空券が確保できれば参加可能ですので…。7月末で、完全に締切ります。

チェンダオ山やインタノン山の登山地図を探しているのですが、未だ見つかりません。どなたか情報をお持ちの方はいませんか？

### 2) 海外登山活動に関するアンケート調査実施スタート

『海外登山活動に関するアンケート調査』を実施中です。

6月28日(木)時点で、4会(22件)の回答がメールや文書で届いています。

★提出期限:8月4日(土) 早ければ早いほど望ましいです！

回答(提出)方法は、各会の都合の良い方法で構いません。回答数が多ければ多いほど傾向を把握できますので、多くの会員の皆様のご協力をお願いします。

### 3) 『海外委員会委員』募集

今回のアンケート調査実施結果の分析、今後の海外登山の実施、及び、海外登山全般に関する情報交換等を行うために、各会から少なくとも1名を『委員』として登録していただきたいと思っております。委員が難しいようでしたら、会の窓口担当者でも構いません。

まずは、委員(窓口担当者)間でのメール情報交換を進めたいと考えています。

<問合せ先>

安彦秀夫(東葛山の会) E-メール: mt25hm4abichan49@gmail.com

ご連絡をお待ちしております！

千葉県連加盟会代表者 様

千葉県勤労者山岳連盟  
会 長 広木 国昭

## 第17回全国登山研究集会 in 愛知の開催について

日頃 千葉県連盟活動に参加・級力をいただき有難うございます。  
千葉県連では、定時総会で提起しました幾つかの課題を解決し、次世代に引き継げる組織づくりに取り組んでいます。なかでも、・欠員役員の選出・委員会の活性化・ちばニュースの刷新を最重点に、理事会が中心になり活動しています。つきましては、会代表者、会員の皆様のご意見、ご要望をお寄せください。

さて、全国連盟は下記要綱により「全国登山研究集会」を、愛知県で開催することになりました。「全国登山研究集会」の実施目的は、労山組織の現状を見直し、登山本来の目的を達成し多くの仲間を迎える事です。これは、千葉県連が実施しようとしている事、実施しなくてはならない事とまったく同じです。千葉県連から多数の参加者を送り全国の仲間と交流しその経験に学びたいと思います。

つきましては、下記のとおりご案内をいたします。各会に置かれましては、会員の皆様に呼びかけて多数の参加をお願いします。

また、この集会では、実践・研究レポートを募集しています。千葉県連からも多数の提出をお願いいたします。

### 実 施 要 綱

テーマ 誰もが登山できる喜びを広げ、登山文化と労山運動を次世代に継承し発展させよう！

#### 目 的

労山は、登山・ハイキングの素晴らしさを多くの人々に健康で文化的なスポーツ・レクリエーションとして普及・発展をめざし、労山運動を行ってきた。

いま、多様に発展した労山の登山活動で、遭難事故を防ぐ登山技術の継承や、会員の楽しい活動で、若者や未組織登山者のさまざまな登山要求に応えていくことが求められている。会員の情熱とエネルギーが、そうしたことに向けて発揮されるならば、労山はさらに大きく発展することができる。

そこでこの集会では、①会員誰もが登山できる喜びが得られる仲間づくりを目指す、組織の拡大・強化、②遭難事故のない登山を追求し、それを実現する登山技術と登山文化の継承、③登山者の多様な登山要求に応える活動などについて、全国各地の会・クラブや地方連盟の日頃の優れた実践と成果を交流・共有し、今後の労山運動の発展につなげる集会とする。

この集会に多くの労山会員、全国の登山の発展に尽くされている登山愛好者の参加を、心より呼びかけるものです。

・ご意見・問い合わせは 千葉県連会長 広木 国昭までお願いします。

記

- 期 日 2018年11月23日(金・祝日)～24日(土)
- 会 場 愛知県民の森 モリトピア愛知(宿泊施設名) 愛知県新城市
- 参加対象 労山会員および全国の登山者
- 主 催 日本勤労者山岳連盟
- 主 管 全国登山研究集会実行委員会・愛知県勤労者山岳連盟
- ・日 程
- 23日 12:30 受付開始
- 13:00 開会あいさつ  
日本勤労者山岳連盟理事長あいさつ
- 13:10～ 記念講演「K2からシリアへ」  
—8000mのビバークから見えてきたもの—  
講師：小松 由佳 氏(登山家・写真家・労山カレンダー選考委員)  
1982年秋田県生まれ。2006年、“世界で最も困難な山”  
世界第二の高峰K2(8611m)に日本人女性として初めて  
登頂。人間の暮らしに惹かれ、草原や沙漠を旅する  
うちフォトグラファーを志す。2012年からシリア内戦  
取材し、シリア難民の今を伝える活動を行う。
- 14:30～ 休憩
- 14:50～ 基調報告  
・集会の意義目的と組織強化拡大・次世代育成について
- 15:50～ 活動報告 連盟及び加盟団体の活動：6団体程度予定  
・会クラブの組織強化・次世代育成など優れて実践経験
- 18:00 第1日目閉会
- 18:30～ 夕食・交流会 20:30～宿泊施設で各自交流
- 24日 7:00～8:00 朝食
- 8:30～11:30 分科会
- 11:30～12:00 全体でまとめ集会・解散
- 分科会
- 1 「労山の組織強化・拡大、次世代育成」
  - 2 「登山のための筋力維持と強化」
  - 3 「安全登山」
  - 4 「若い世代の交流」
  - 5 「大開発による山岳自然破壊とどのように向き合うか」  
—リニア新幹線による南アルプス等の自然破壊の実態等—
- 参加費用 一泊二食での参加 8,500円  
※日帰り参加一日も二日も 500円(資料代)
- 宿 泊 愛知県民の森 モリトピア愛知
- 問合せ先 労山全国連盟事務局 TEL 03-3260-6331  
FAX 03-3260-6331 E-mail jwaf@jwaf.jp
- レポート提出 9月30日(日)迄
- 参加申込締切 10月25日(木) 別紙申込書にて全国連盟事務局まで

## ☆レポート募集

都道府県連盟および会・クラブから下記のテーマで活動報告を求めます。都道府県連盟から、会クラブの優れた活動について、実行委員会へ積極的な推薦をお願いいたします。

成功事例や特徴的な活動として、全国の仲間に広めていきたいと考えていますので、第17回全国登山研究集会では、地方連盟・会・クラブから寄せられたレポートを報告集として作成し、当日の資料とします。

寄せられたレポートのなかから、全国登山研究集会で発表していただく方々を選出することにします。発表者については、参加費及び会場までの交通費は全国連盟で負担します。

レポートテーマ（下記の分科会テーマに沿って）

- 1 「登山会員拡大強化と次世代の育成」
- 2 「登山・ハイキングのための筋力維持と強化」
- 3 「安全登山」
- 4 「若い世代の交流」
- 5 「大開発による山岳自然破壊とどのように向き合うか」  
ーリニア新幹線による南アルプス等の自然破壊の実態等ー

具体的には、

会員拡大の実践的な経験、新入会者への丁寧懇切な対応、会報発行と会員の連携や強化、新規加入の為のホームページの活用、登山運動の歴史や登山基金の有用性への意識共有、会の運営体制の工夫や努力、山行計画書と山行管理の体制と緊急時の対応、筋力維持と安全登山への取り組み、役員の次世代育成、若い世代の自主的登山活動の推進、平和と登山の活動、など多様なレポートをお願いします。

報告書の書式と枚数は下記のようにお願いします。

ワード文書、用紙 A4、余白 上下左右ともに25mm、文字数・行数40  
フォントの設定 日本語用のフォント MS明朝、英数字用のフォント MS明朝（または日本語用と同じ）、スタイル 標準、サイズ 12  
文書2枚程度、写真や図表がある場合は追加1枚

以上をパソコンメールに添付で全国連盟 E-mail [jwaf@jwaf.jp](mailto:jwaf@jwaf.jp) へお送りください。

報告期限 2018年9月30日

衆議院議長 殿  
参議院議長 殿

問合せ先：千葉県連ホームページ「事務局への問合せ」  
署名送り先：各会でまとめて、7月・9月県連理事会に

## リニア新幹線で南アルプスの自然を壊さないでください

南アルプスは、日本を代表する優れた自然の風景地として国立公園に指定され、「ユネスコエコパーク＝生物圏保存地域」に国内で6番目に登録されています。JR東海は自然豊かな山岳地帯を、トンネルで貫通させるリニア新幹線の建設を推し進めています。

リニア新幹線計画は、山梨県、長野県、静岡県にまたがる南アルプスの山岳地帯で中央構造線をはじめ、無数の活断層の中を横切ります。ここは、年間4<sup>ミ</sup>もの隆起を続けていて、稜線から1400メートルの下にトンネルを貫通させることは、安全対策上の面からも専門家から危惧する声があげられています。

南アルプスは、貴重な山岳自然の宝庫ともいえる場所であり、日本の国土の生物多様性を支える、いわば屋台骨としての役割を果たしている大井川源流の山岳地帯です。この地域がトンネル掘削工事に伴う河川への減水（大井川水系では毎秒2<sup>ト</sup>）、トンネル掘削によって排出される残土処理、10数年以上にも及ぶ工事の騒音、工事のための作業員700名が常駐する宿舎が建てられる問題等、工事に伴う南アルプスの自然環境への影響は計り知れないものがあります。

リニア新幹線計画は、日本のなかでも貴重で豊かな山岳自然を破壊する行為につながると同時に、日本のエネルギー政策の将来にも大きな禍根を残すことにもなり、国民的な議論が必要なものです。

日本勤労者山岳連盟は、山岳自然との共生を求めていくために独自に「労山自然保護憲章」を制定し、「山岳での開発動向に関心を持ち、利便性にかたよることなく、事実にもとづいた判断で自然がそこなわれないよう努める」ことを掲げ活動しています。その理念や観点に基づき下記の事項について要請します。

### 記

- 1、南アルプスの自然環境保全と沿線住民の生活環境の保全などの立場から、リニア新幹線計画の凍結、見直しを求めます。
- 2、リニア新幹線計画は、日本のエネルギー政策の将来にも大きな禍根を残すことから、凍結・見直しを求めます。

年 月

〈取扱い団体〉 日本勤労者山岳連盟  
〒162-0814 東京都新宿区新小川町5-24  
電話 03-3260-6331 FAX 03-3235-4324  
E-mail [jwaf@jwaf.jp](mailto:jwaf@jwaf.jp)

《リニア新幹線で南アルプスの自然を壊さない要請に賛同する署名》

氏名	住所*都道府県からご記入ください
1	<u>千葉県</u>
2	<u>千葉県</u>
3	<u>千葉県</u>
4	<u>千葉県</u>
5	<u>千葉県</u>
6	<u>千葉県</u>
7	<u>千葉県</u>
8	<u>千葉県</u>
9	<u>千葉県</u>
10	<u>千葉県</u>

この署名は個人情報保護法に基づいて使用し、記載された目的以外には使用しません。

取扱い団体

団体名 千葉県勤労者山岳連盟

2018.04.24

子どものつばさ南相馬

### 福島県・南相馬の子どもたち現地の状況について

桜の季節も過ぎ、子どもたちも新学年が本格的に始まっております。

さて、震災から7年の歳月が過ぎ南相馬の小中高校とも仮設校舎から本校舎へ戻り、新たな段階に進んできております。報道などに取り上げられる機会が少なくなり、ともすると終わったことと捉えられてしまうかもしれませんが、実態はやっと復興のスタート地点に立ったという状況にすぎません。震災当時幼かった子どもたちの震災トラウマ、疲れ、発達の課題なども表出してくるきております。

まだまだ、みなさまのご支援が必要な状況ととらえております。

南相馬こどものつばさが皆様のご協力により実施してまいりました夏のキャンプ事業等は、子ども達がストレスから解放される機会となるだけではなく、多くの方々と交流する中で視野を広げ、強く生きる力をつける場となっていることを、子ども達の感想文や日常の様子から実感しております。

については、今年度も子ども達を受け入れていただけますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

## 第5回「福島の子供たちと夏休み」保養プロジェクト カンパのお願い

福島県南相馬市内の小学生約20名を招待し、のびのびと自然に触れ合い、野外で遊ばせる「福島の子供たちと夏休み」は、2014年 長野県 2015年 神奈川県 2016年 静岡県 2017年 関東ブロック協議会（都連盟窓口）と4年間継続して実施されて来ました。

東日本大震災から既に7年を経過した現地状況は、地震、大津波、続く福島第一原子力発電所の爆発による放射線拡散の三重苦に苦しめられており、環境省の除染計画は縮小され、空き家、傾斜地、森林は、除染されていない為、7年を過ぎた今も、時間が止まっているかの様に見え、もとの生活を取り戻すには、程遠い状況にあります。

このような現状から、福島県の子供たちと環境を変えての夏休みを一緒に過ごす事で、日頃の苦勞に報いるために少しでも力になりたいと、関東ブロック協議会実行委員会は、昨年に引き続き力を合わせて保養プロジェクトを継続実施することとしました。

### 記

目的：福島の子供たちと、のびのびと自然に触れ合い、ゆっくりと遊ばせる

対象：福島県南相馬市の、小学4年生～6年生 20名

日程：7月30日（月）PM入村式、浜、磯遊び、貝拾（海岸） 村内探検、夜/花火、肝試し、  
31日（火）シーカヤック or いかだ遊び、水遊び、スイカ割・夜/バーベキュー、  
キャンプファイヤー等

8月1日（水）クラフト作り等、AM閉村式

場所：三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ（旧名称）三浦海岸・ふれあいの村

主催：関東ブロック協議会・実行委員会

協力：南相馬市PTA連絡協議会 NPO法人南相馬こどものつばさ、

この保養プロジェクトは、関東ブロックの都・各県連盟、労山災害対策本部からの資金を協力して頂いていますが、まだ資金が不足しておりますので、皆様からの温かいご支援のカンパの訴えをさせていただきます。

振り込み先、連絡先は以下の通りです。よろしくお願い致します。

○振込先 ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュー）店（019）当座 0193390 労山都連盟事業費

○連絡先 第5回「福島の子供たちと夏休み」保養プロジェクト関東ブロック協議会実行委員会

〒162-0814 東京都新宿区新小川町5番24号

実行委員会代表 佐々木 功 090-3692-2309

E-mail: sskjpw258@ae.auone-net.jp

# 県連たより

## 千葉県勤労者山岳連盟（千葉労山）

### ◎ 県連盟事務所

〒262-0033

千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101 号室

TEL・FAX： 043-306-1190

Eメール：[rousanchiba@grape.plala.or.jp](mailto:rousanchiba@grape.plala.or.jp)

JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分

（県連事務所に常駐者はいません）

ご意見・問い合わせは、下記をお願いします。

- ・千葉県連ホームページ：

事務局への問い合わせ

- ・Eメール：[dabphiro@zpost.plala.or.jp](mailto:dabphiro@zpost.plala.or.jp)

### ◎ 会員の事故一報送付先

Eメール：教遭委員長・伊東 春正

：[itou2385@yahoo.co.jp](mailto:itou2385@yahoo.co.jp)

FAX：教遭副委員長・広川 登志男

：043-36-7219

全国連盟事務局にも必ず送付する事

Eメール：[jwaf@jwaf.jp](mailto:jwaf@jwaf.jp)

FAX：03-3235-4324

### ◎ 連盟費振込み先

郵便振替口座

00160-3-481509

千葉県勤労者山岳連盟

### ◎ 「ちばニュース」

- ・原稿送付先

- ・ご意見・問い合わせ は

発行責任者：広木 国昭まで

[dabphiro@zpost.plala.or.jp](mailto:dabphiro@zpost.plala.or.jp)

NPO法人「ちば労山ゆう」は

解散しました。その後を受けて、

支援活動は千葉県連が窓口になり

受け継いで行きます。

支援活動は、各会で計画・実施を

お願いします。

（事前に一報をお願いします）

支援海産物の販売は、

今まで通り実施しています。

被災地への思いを忘れずに

**出来る時に**

**出来る人が**

**出来る事を**

「福島の子供たちと夏休み」カンパのお願い（関連記事 17P掲載）

昨年もお願ひし、多大なご協力をいただきました。「ちば労山ゆう」も解散し  
千葉県連の支援活動は小休止と言った状況です。

被災地の子供たちの現状を理解いただきご協力をお願いします。

カンパ振込は、千葉県連会長 広木 国昭（[dabphiro@zpost.plala.or.jp](mailto:dabphiro@zpost.plala.or.jp)）

振込口座 ゆうちょ銀行 10530-71800571

ヒロキ クニアキ

### 【編集後記】

- ・千葉県で初めての「国際山岳看護師」が誕生した。（関連記事を掲載）

幅広い専門的な活動が期待されている。県連としても、話を聞く、講習会を  
計画するなどの機会をつくりたい。小林さん、よろしくお願ひします。

- ・8月は、県連活動は全てお休みします。絶好の夏山を、県連行事や会議で足止  
めをしない。思いきり夏山を満喫しリフレッシュして下さい。

そして、9月に山行報告を投稿してください。紙面を空けて待っています。

県連活動予定表

7		行事予定	8		行事予定
1	日		1	水	
2	月	県連役員会	2	木	<b>県連活動は休みします</b> 山行で気分転換をして、9月から頑張ります
3	火		3	金	
4	水		4	土	
5	木		5	日	
6	金		6	月	
7	土	第21回自然保護口座	7	火	
8	日	(南アルプス樫島集会)	8	水	
9	月		9	木	
10	火		10	金	
11	水		11	土	
12	木		12	日	
13	金		13	月	
14	土		14	火	
15	日		15	水	
16	月		16	木	
17	火	全国役員会	17	金	
18	水		18	土	
19	木	県連理事会	19	日	
20	金		20	月	
21	土		21	火	
22	日		22	水	
23	月	県連女性委員会	23	木	
24	火		24	金	
25	水		25	土	
26	木	全国理事会	26	日	
27	金		27	月	
28	土		28	火	
29	日		29	水	
30	月		30	木	
31	火		31	金	

発行者 : 千葉県勤労者山岳連盟  
 〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18  
 レジデンス幕張台 101号室  
 TEL・FAX 043-306-1190 (常駐者はいません)  
 発行責任者 : 広木 国昭(danphiro@zpost.plala.or.jp)  
 問い合わせは:千葉県連ホームページ・事務局への問合せまで